

4 12校内研修会

「特別の教科 道徳」の評価について



溝上 孝弘

評価の意義

教師

教師が指導の目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童

自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ，児童の成長につながる評価でなくてはならない。

指導と評価の一体化

評価の在り方（留意点）

- ・数値による評価でなく、記述式とすること
- ・個々の内容項目ごとでなく、大くくりなまとまりをふまえた評価とすること
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいか
に成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価
として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと
発展しているか。道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中
で深めているかといった点を重視すること
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況
等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用すること
がないようにすること

評価の視点

授業では、児童の何を、どのように見とるべきなのか

道徳性を養うために行う道徳科における学習

自己を見つめる

多面的・多角的に
考える

道徳的価値の理解

生き方についての考え
(思考)

学習を通して

道徳性

道徳的な判断力
心情
実践意欲と態度

実践

学習状況を
評価する

各教科の目標
に基づく指導

評価を記述する着眼点

○主に具体的な「生徒の学習状況」をとらえた評価

- ・道徳の内容について、学習を深めていた(進んで書いていた。話し合いに積極的に取り組んだ。自分の考えをよく表現していた)等

○主に多面的・多角的な見方への発展をとらえた評価

- ・道徳的価値を様々な側面から広く見るようになった。自分の考えを深めて、具体的なものにしていった等

○主に自分自身との関わりでの価値の深まりに関する評価

- ・学習した道徳の問題を自分事としてとらえていた。自分の生活や生き方の問題として考えていった等

○「道徳性に係る成長の様子」をとらえた全体的な評価

- ・生き方へのあこがれを温めていた。自分自身を高めようとしていた等(ただし、行動・行為・習慣などの変容には触れない)

参考文例を見よう

評価の具体的な工夫

- 児童の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- 児童が道徳性を養っていく過程での児童自身のエピソードを蓄積したもの
- 作文やレポート, スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の展開
- 児童が行う自己評価や相互評価等

組織的・計画的な評価の推進

評価のために集める資料や評価方法を明確にしておく

評価結果について教師間で検討し、評価の観点などについて共通理解を図る

評価に関する実践事例を蓄積し、共有する

校内で研修・確認

配慮すべきこと

- ・授業中の発言がほとんどない。
- ・文章表現が得意ではない
- ・表情に表れにくい



内面は・・・

多様な指導方法の工夫, 教師の働きかけの中で

書く活動を取り
いれてみる。

ペアやグループ等
多様な話し合いを
取り入れてみる。

体験的な学習を
取り入れてみる。

教具を活用し
てみる。

そばにいて聞
いてみる。

留意！評価のため
にするのではない

支持的学級風土

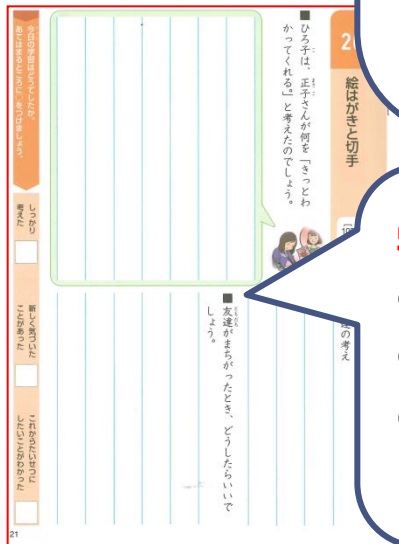
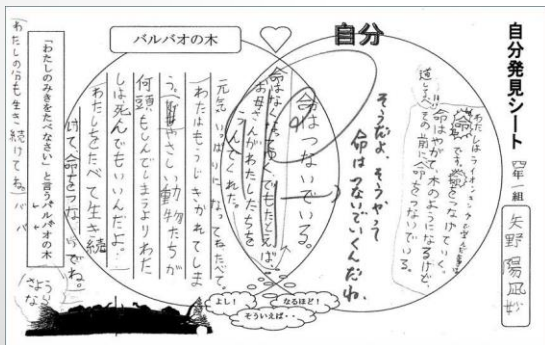
具体的に・・・

日々の授業をとおして

エピソード記録

4月	教材名	主題名	内容項目
4月	()		
月	()		
日	()		
()			
4月	教材名	主題名	内容項目
4月	()		

道徳ノート ワークシート



個々の見とりの中で授業中のエピソードを記録していく。

○新たな発見, 芽生えが表出した場面を記録

○表出したつぶやき, 発言, 役割演技等を具体的に記録

3人程度 まんべんなく
溝上が書くときもあります。

職員共有→30年→25道徳教育→評価シート(ショートカットをつくって！)

学びの足跡をのこす。

○中心発問, 振り返りの記録

○学習の自己評価は必ず

○基本は道徳ノートだが, ワークシートを使用した場合はノートにはる。

具体的に・・・

妥当性・信頼性を高めるために

○夏季休業中に評価に関わる
第一回実践研修

○冬季休業中に評価に関わる
第二回実践研修

みんなで書いてみよう

みんなで確かめよう

まとめ



参考文献 資料

- 「道徳科」評価の考え方・進め方 永田繁雄著
- 「道徳科の指導と評価の一体化の実現」 浅見哲也講演資料